

西公民館

囲碁クラブ

活動開始

平成15年度西公民館主催の囲碁クラブの活動がスタートし、第1回目の会が5月10日(土)に開かれました。

クラブは初心者対象で、松前町碁友会の方々が指導します。今回は、子ども12名、一般成人2名の合計14名の参加がありました。

参加者の声を聞いてみましょう。



▲開講式の様子



▲学習の様子



▲碁友会の皆さん

囲碁クラブに参加して

五年 徳永 亜利沙
私は囲碁をするのは生まれて初めてだったので、囲碁クラブに参加してよかったです。

囲碁は、はじめはむずかしかったです。最初は、たたくやうに打つていくうちにおぼえて楽しくできました。私はもっと囲碁のことを知りたいし、もっと強くなりたいので、これから囲碁クラブに行き、プロの人たちともできるようなになれるよう、がんばりたいです。

六年 木村 椎菜

私は、はじめ囲碁なんてつまらないと思っていました。

でも、ある日、友達にさそわれて、「一回ぐらい、いいかな。」と思って、行ってみました。そして、参加してみるとすごく楽しかったです。親切な方たちが、ていねいにやさしく教えてくださるので、今まで分からなかった囲碁が分かるようになって、すごく良かったと思いました。そして、もっともっと囲碁が楽しいという人が増えたらいいなと思いました。

ふるさとをたずねて

住吉神社と松前港天保山

文化財保護審議会委員

藤岡 香市

松前港旧港を隔てて天保山埠頭に對面する住吉神社は、和積神社、素盞鳴神を主祭神とするが、このうち和積神社は「海」を主宰する住吉大神(底筒男命、中筒男命、上筒男命)とされている。

全国津々浦々に2,000余りある住吉神社は、いずれも海と縁が深く、海上の安全守護神などとして崇められ、その総本宮である大阪の住吉神社もかつては、海に因んで「住之江」と呼ばれていた。

建物の様式は、いわゆる「住吉造り」の「妻入り」で、屋根の平らな側出入口を設ける「平入り」とは対照的である。

境内には、天地創造の神大己貴命を祀る金刀比羅神社の末社もあるが、どの营造物も傷みが著しく、祭りの時の賑わいに比べ、普段は至って殺風景である。



▲住吉神社

中世から近世にかけて、関西随一の良港といわれた

松前港は、加藤嘉明が足立重信に軍港として整備を命じ、慶長2(1597)年2月、2,400の兵を率いて朝鮮に出兵したとされている。

港を構成する天保山埠頭は、その呼称から天保年間(1830~1844)に由来すると考えられるが、永年にわたる海底や河口の浚渫によって築かれたらしい。埠頭には漁師の守護神として、瀧姫神社、厄除社、龍王社があるが、このうち瀧姫神社に祀られている瀧姫は、3人の侍女とともに松前の浜に漂着し、魚の行商の始祖となり、あの「おたたさん」につながったと伝えられている。

明治以降この港から、松前の珍珠「儀助煮」や砥部の陶磁器「砥部焼き」などを積み込んだ「からつ船」(通称「わいた船」)が手広く行商に出ていた。その隆盛の様は、砥部焼き窯元が松前商人に謝意をこめて住吉神社境内に建立した「寄附芳名碑」からもうかがえるが、漆器などの日用品を行商した桜井の「椀舟」に似ているところが興味深い。